

あいちの外国人児童生徒教育連携事業

日本語初期指導教室の在り方リーフレット No.1
生き生きと学校生活を送るために

愛知県には、日本語指導を必要とする児童生徒が全国で最も多く在籍し、近年は集住化とともに散在化も進んでいます。

日本語指導を必要とする児童生徒は、「意思疎通が十分にできない」「勉強が分からない」など大きな不安の中で学校生活を送っています。私たち教師は、このような児童生徒が日本語を習得して生き生きと学校生活を送り、将来の愛知、ひいては日本を支える大切な人へと成長することを願っています。

そこで、愛知県教育委員会では、外国人への日本語指導に実績のあるNPO団体と協働して、効果的な日本語初期指導教室運営の在り方についての研究を進めました。本リーフレット等は、その研究成果をまとめたものです。これらを参考にし、各学校において、積極的に日本語初期指導が実施されることを願っています。



○在籍学級での学校生活を基盤とした
日本語初期指導を進めましょう



- ・ より早く日本語を習得するためには、日本語初期指導教室において、毎日継続して日本語指導を行うと効果的です。
- ・ しかし、日本語初期指導教室の指導だけでは、学校生活に対する適応能力を十分に高めることはできません。在籍学級での学校生活を基盤とした日本語初期指導を進めることで、学級の児童生徒との関わりを通して日本の学校生活に早く慣れることができます。
- ・ また、在籍学級と日本語初期指導教室が連携して、始業の挨拶の言葉や授業中の教師の指示の言葉を統一したり、児童生徒の情報を共有したりすることも大切です。

○日本語による日本語初期指導を進めましょう

- ・ まずは、日本語初期指導を始めましょう。児童生徒の母語が話せないからと指導に消極的になることはありません。「日本語による日本語指導」を毎日継続して行うことが大切です。
- ・ 実物や絵カード、ジェスチャーを見せながら、日本語を伝えましょう。
- ・ 母語の異なる児童生徒をグループで指導することも可能です。お互いが刺激を受け合って日本語習得が早まるという効果も期待できます。
- ・ 日本語を「話す指導」と「書く指導」を並行して行いましょう。



では、どんな「日本語初期指導計画」が必要でしょうか

日本語のカードゲーム、漢字、ひらがな、カタカナがわかるが、楽しかった。毎日、日本語初期指導教室に行ったから、日本語はちょっと話せます。私は、これからも日本語をがんばって覚えたい。漢字も全部覚えたい。
 (モデル校の外国人児童の声)

日本語初期指導教室の先生のおかげで、日本語が分かるようになって、学級でも友達が増えました。もっと友達と一緒に勉強がしたいと、わくわくした気持ちです。日本語初期指導教室に通えて良かったです。
 (モデル校の外国人児童の声)



日本語初期指導教室で仲間と一緒に学ぶ中で、不安だった様子が消えていき、前向きに日本語の学習に取り組むようになり、生き生きと生活する様子が見られるようになりました。「日本語初期指導教室(の授業)は何時間目?」と自分から尋ねるなど、楽しみにしているのが伝わってきてうれしかったです。
 (モデル校の日本語指導担当教員の声)

日本語初期指導教室の担当者と毎日のように情報交換ができたことで、外国人児童が学んできた日本語を、授業等で積極的に使うことができました。そうしたことで、学習した日本語がより定着し、本人の自信につながったと思います。
 (モデル校在籍学級の担任教員の声)

あいちの外国人児童生徒教育連携協議会

上田 崇仁	愛知教育大学准教授
宮澤 祐子	愛知県県民生活部社会活動推進課多文化共生推進室長
伊東 浄江	NPO法人トルシーダ代表
加藤 雅亮	安城市立祥南小学校長
田中 敦子	愛知県教育委員会西三河教育事務所指導主事
浅倉 幸代	安城市教育委員会指導主事
柵木 智幸	愛知県教育委員会義務教育課長

日本語初期指導教室の在り方リーフレット
「生き生きと学校生活を送るために」
 平成29年3月発行

【発行】 愛知県教育委員会義務教育課
 【委託団体】 NPO法人トルシーダ
 【実践協力校】 安城市立祥南小学校

日本語指導が必要な児童生徒が生き生きと学校生活を送るために

日本語初期指導の全体計画



受入

○準備

日本語教室の説明
日本語力・母語力・(計算力)の把握
指導個票(個別の指導計画)作成
時間割の作成

第Ⅰ期

□目標

学校生活を送る上で、最低限の意思疎通ができる日本語を習得する。

○生活面

- ・自己紹介(名前、年齢等)
- ・挨拶等のサバイバル日本語
- ・授業で使用する指示語

○学習面 ※120時間(60日)プログラム 「第Ⅰ期」参照

- ・ひらがなの読み書き
- ・名前のひらがな書き
- ・数字の読み書き

第Ⅱ期

□目標

学校生活をスムーズに送るための日本語を習得する。

○生活面

- ・自己紹介(名前、好き嫌い等)
- ・学級生活で使用する言葉
- ・時間(割)や曜日を表す言葉

○学習面 ※120時間(60日)プログラム 「第Ⅱ期」参照

- ・学級環境の教材化
- ・カタカナの読み書き
- ・ひらがな、カタカナの絵本読み

第Ⅲ期

□目標

日常生活や授業・行事等で必要な日本語を習得する。

○生活面

- ・学校生活、行事で使用する言葉や文
- ・日常生活で使用する言葉や文

○学習面 ※120時間(60日)プログラム 「第Ⅲ期」参照

- ・学校環境の教材化
- ・小学1年生と2年生の漢字の読み書き
- ・短い日記書き

運営上の配慮事項

○指導方法

- ・児童生徒や学級の実態に合わせ、1日2時間以上の取り出し日本語初期指導を行う。
- ・実物、動作、絵、写真等を使ったり、歌を活用したりして、日本語で日本語を教える。
- ・できたこと、分かったことを褒め、認める。
- ・読む活動、会話活動はグループで、書く活動は個別に行う。
- ・1コマ(45分)の授業の流れをパターン化する。(日常会話の練習、前時の復習、新文型等の導入、場面会話の練習、書く練習)

○連携方法

- ・日本語初期教室担当者と学級担任が授業等で使用する言葉を統一する。
- ・「指導個票(資料参照)」を活用して、学級担任や保護者等と情報共有し、指導や支援に生かす。
- ・「特別な教育課程(資料参照)」を活用して、語学相談員等と情報共有し、必要に応じて指導や支援に生かす。



教科別の取り出し指導への導入

※家庭では母語をしっかり身に付けることも言語の発達に重要です。

